

東京の生協のまちづくり活動トピックス

「2025年度 まちづくり・地域活動交流のつどい」を開催しました

3月9日(月)、東京都生協連会館において、15生協、2団体、合計62名の参加者でにぎやかに開催しました。今年度も14生協で構成する実行委員会を立ち上げ、盛りだくさんのプログラムを企画しました。ともに学びあい、悩みを共有し、アイデアを出し合い、これからのまちづくり活動に活かせる交流ができました。

学習講演 「地域の子どもを地域で見守り育てるために～WAKUWAKUホームの実践より～」

「虐待の連鎖からおせっかいの連鎖へ」の転換を目指して活動をスタートした地域住民主体のNPO「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」のこれまでの歩みと、子ども支援の重層的な実践を、映像資料を交えて詳細にお話ししていただきました。

「おせっかい」をキーワードに、節度を持った関与によって支援の連鎖を生み出し、「学習支援」「子ども食堂」「ホームスタート」、学校・教育委員会・NPOの共催で運営する中学生の居場所「にしまる一む」の取り組みを経て、「WAKUWAKUホーム」に至るお話をしていただきました。

勉強・遊び・夕食を共にし、困ったときに子どもが泊まること出来る「WAKUWAKUホーム」には、現在天野さんご夫婦が住み込みで取り組まれています。つながりも広がり続けるさまざまな活動に、参加者からも多くの質問が寄せられました。

交流タイムには「担い手の見つけ方、ボランティアへの参加呼びかけはどうすればいいのか。」という質問に対して、同じメンバーに拘らず新人でも良い、やりたい人でやる柔軟なチーム運営が継続のコツだとの回答と、学生ボランティアや、元気な高齢者の力も見出し、活動の幅を広げていくこと期待していると、参加者にエールを送られました。



天野敬子さん
(豊島子どもWAKUWAKU
ネットワーク事務局長・副理
事長)

1974年に八王子市で誕生し、八王子市を中心に多摩地域で活動する自然派くらぶ生協から「困った時はお互いさま」組合員とともに取り組む支援活動として「フードドライブ」と「子ども応援募金」の取り組みが紹介されました。



田野倉 悠さん
(自然派くらぶ生協)



笹目 篤さん
(西都保健生協)

事例報告

西都保健生協からは、2025年は協同組合年に因み、協働組合間連携の取り組みとして「減塩をテーマに地域生協と医療生協の共同企画～すこしおフェスタ～」を開催し、連携したからこそ実現できたことなどが報告されました。



テーマ別交流会

「子ども食堂・フードドライブ・フードパントリー」「見守り活動・居場所作り」「地域活動・まちづくり」など、6つのグループに分かれて交流しました。

ミニ体験



安江 淳さん
(東尾久地域包括センター)



右)石渡 康子さん(東京都認知症介護指導者)

荒川区で「徘徊を散歩に変えるまちづくり」として「街なか声かけ講習会」を行っている安江さんのお話を聞いた後で、実際に参加者に声かけを体験してもらいました。実際に街なかで認知症と思われる方に声をかける時に気を付ける点を知ることができました。

参加者の感想など

- ・生協の組合員さん以外にも参加されている団体の方とつながることができて楽しい会でした。
- ・半日でしたが、刺激を受けることができ、やる気を膨らますことが出来ました。ありがとうございました。

